

2015年7月3日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 田辺 有輝

ミャンマー国ハンタワディ新国際空港開発運営事業
(協力準備調査(有償 PPP))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015年6月22日(月) 13:59～16:43
- ・場所：JICA 本部(212 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、田辺委員、松下委員、松本委員
- ・議題：ミャンマー国ハンタワディ新空港開発運営事業(協力準備調査(有償 PPP))
に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：ミャンマー国ハンタワディ新空港開発運営事業(協力準備調査(有償 PPP))
スコーピング案 事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第60回委員会)

- ・日時：2015年7月3日(金) 14:31～17:30
- ・場所：JICA 本部(会議室：1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. バゴー市に新国際空港が建設されることになった理由を DFR に記述すること。
2. ミャンマー国の航空運輸に関するマスタープラン(旅客及数び貨物量の推移、それらの推移予測、国際空港の役割分担、必要性、等)について DFR に記述すること。
3. 最新の需要予測をもとに空港の利用者数を正確に DFR に記述すること。
4. 空港予定地内にある 2 つの貯水池の概要及び貯水池利用の現状について DFR に記述すること。

代替案の検討

5. 9 候補地の比較・選択について可能な限り調査を行い、DFR に記述すること。

スコーピング・マトリックス

6. 保護区について、サイト及び近傍に保護区はないと記載されているが、新空港から 20km 北方に Moyingyi 湿地野生保護区があり、航空機の航路上に位置する可能性があることから、供用時の負の影響を N から C とし、自然環境への影響を確認して DFR に記述すること。
7. 飛行機の進入ルート設定について、環境影響を予測し、可能な対策を講じる旨を DFR に記述すること。
8. 移転対象住民の存在が確認されたステークホルダー協議の結果を受け、他にも居住者や生産活動に利用している人がいないか慎重に吟味した上で、社会環境の各項目について改めて評価をし直し、適切に調査を実施すること。

環境配慮

9. 旧日本軍が滑走路を建設していたことから、爆発物や有害物質などが埋められていないかを確認し、必要に応じて対応策を検討すること。
10. 周辺の灌漑用水への影響については、今後の調査で具体的に確認し、DFR に記述すること。
11. 新空港建設による、国道 1 号線や東西道路の交通量の増加予測を行い、合理的な範囲内で影響を評価し、DFR に記述すること。
12. 航空機の離発着に伴う騒音の影響を受ける住民の規模・範囲、付近の病院・学校・宗教施設等の特に配慮が必要な施設の有無を調査し、DFR に記述すること。

社会配慮

13. 1990 年代及び 2013 年の用地取得・移転の対象となった住民については、補償の有無や妥当性等を改めて調査し、DFR に記述すること。
14. 以前の事業が中止された後にパゴダが新たに建設された背景を確認し、DFR に記述すること。

15. 過去の用地取得・移転で対象となった住民の生計回復が図れていない場合は、生計回復を図るようミャンマー政府に働きかけること。
16. サイト内にある軍施設の移転先での影響を可能な限り調査し、DFR に記述すること。
17. 空港敷地内の居住者については詳細情報を確認し、適切な補償や移転計画を検討すること。

ステークホルダー協議・情報公開

18. ステークホルダー協議を補完するため、被影響住民を含み本事業にて影響を受ける人々へのインタビュー等を通して多様な意見の取得に努めること。
19. ステークホルダー協議のテーマ、日時、場所、参加者と属性、説明内容、参加者からのフィードバック等を含む議事録を作成し、DFR に記述すること。
20. 代替案検討時のステークホルダー協議開催状況を可能な範囲で確認し、DFR に記述すること。

以 上